局

会派名称	支出伝票番号
県政会・立憲民主神奈川ネット	1 － 19

政務活動費支出伝票

経費区分	調査研究費
支出年月日	令和 7 年 4 月 17 日
支出額	198,040 円

使途及び内容

現地調査旅費

按分による支出の場合の記載事項

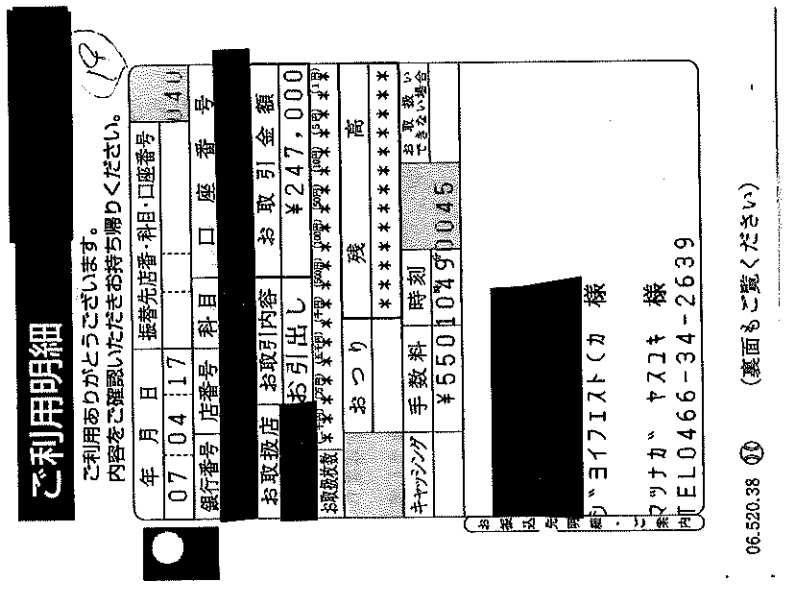
・全体の経費 （ 247,550円） . . . A

・按分の率 （ 80％） . . . . . B

A × B ＝

政務活動費の支出額

198,040 円



備考欄

神奈川県日華親善議員連盟　台湾視察費
5月27日～5月30日
振込手数料550円含む

（第1号様式）

政務活動費（県外・国外）支出票

会派(議員)名　松長　泰幸

政務活動を次のとおり実施しましたので、報告いたします。

1　参加議員	26名（別途添付）		
2　目　的	姉妹提携を結んだ台湾・新北市議会と国際交流等		
3　期　間	令和 7 年 5 月 27 日 ～ 令和 7 年 5 月 30 日		
4　実施場所並びに日程	月日	時間	実施場所
	5月27日	15時	日本台湾交流協会　台北事務所　表敬訪問
	5月28日	8時半	新竹サイエンスパーク視察
		14時	新北市議会とのサッカー交流試合
		16時半	新北市議会表敬訪問と懇親会
		〃	新平市議会懇親会
	5月29日	13時	烏山頭ダム等視察
		16時半	屏東県公式訪問
	5月30日	7時45	紅毛港保安堂視察
5　結果・報告	別途添付		
6　経費内訳	項目	金額(円)	内容
	旅行代金	96,900	バス代、通訳、食事他
	航空運賃	58,400	羽田～台北松山　往復
	燃料、諸税	25,500	
	新幹線代	14,000	台北～嘉儀　高雄～台北
	宿泊代金	52,200	17,400×3泊
	《合計》	247,000	

NO、070527-29

令和７年４月14日

ご旅行代金･請求書（企画手配旅行用）

松長 泰幸 様

平素は、格別のお引き立てに賜り厚くお礼申し上げます。
下記の通り御請求申し上げます。

横浜市金沢区谷津町 308-106
神奈川県知事登録旅行業第3-519号
ジョイフェスト株式会社
登録番号 T8020001058484
☎045-355-0238

御請求金額：￥247,000-

行 き 先：台 湾（新北市・台北市・高雄市）

☆実 施 日：令和７年５月27日(火)出発 ３泊４日

参加人員 １名様

項　目	単 価	人 員	金 額	記 事
【旅 費 内 訳】				
現地手配パック旅行代金	96,900	１名	96,900	大型バスチャーター代/通訳料/食事他
航 空 運 賃	58,400	１名	58,400	
燃油サーチャージ･諸税	25,500	１名	25,500	
新 幹 線 代 金	14,000	１名	14,000	台北→嘉儀 高雄→台北
宿 泊 代 金	17,400	３泊	52,200	@17,400×３泊
合 計 金 額			247,000	
事前入金額			0	
ご請求金額			247,000	税 込

☆お振込の場合は、下記銀行にお願い致します。

振込先：[redacted] 口座名義：ジョイフェスト㈱

※お振り込み手数料は、お客様負担でお願い申し上げます。

【決定便】
1 BR 189Y 23APR HND/TSA 10:50 13:30
2 BR 190Y 26APR TSA/HND 16::20 20:20

お振込は令和７年４月30日(水)までにお願い致します

神奈川県議会日華親善議員連盟

台湾視察報告書

（２０２５年5月２７日～5月３０日）



八田與一記念公園での記念撮影

神奈川県議会日華親善議員連盟

視察趣旨

神奈川県議会日華親善議員連盟として松田良昭団長を筆頭に計26 名の団員で台湾を訪問した。当連盟は、わが国と台湾との友好を深める諸活動を行うことに賛同する議員で組織されたものであり、2008 年に台湾・新北市議会と神奈川県議会が姉妹提携を結んで以来、友好関係を深めてきた。また、10 周年の 2018 年には友好覚書書が締結され、将来にわたる新北市と神奈川県の協力関係の強化が約束された。

両地域は、教育・文化・産業・環境・防災と交流を重ねてきた歴史がある中で、今回の視察は、台湾の観光・歴史文化、半導体産業を中心とした経済施策の現状を調査研究することにより、本県の行政施策の参考、政策立案に反映させることを主たる目的とした。

また、かねてより話し合われてきた、両地域の信頼関係の構築を目的としたスポーツ交流の実現と、今年の１１月に神奈川県鎌倉市において台湾サミットが開催予定であることから、台湾と本県の国際交流事業の周知を図ることも目的とした。

視察概要

【日程】
令和７年５月２７日（火）～令和７年５月３０日（金）

【視察項目】
1：日本台湾交流協会台北事務所 [redacted]面会
2：竹新サイエンスパーク視察
3：桃園市議会 [redacted]議長と懇親
4：新北市とのサッカー交流試合
5：新北市議会表敬訪問／新北市市議会懇親会
6：富安宮　義愛公
　烏山頭水庫風景区（烏山頭ダム・八田與一記念公園）
7：屏東県公式訪問 [redacted]面会
8：紅毛港保安堂

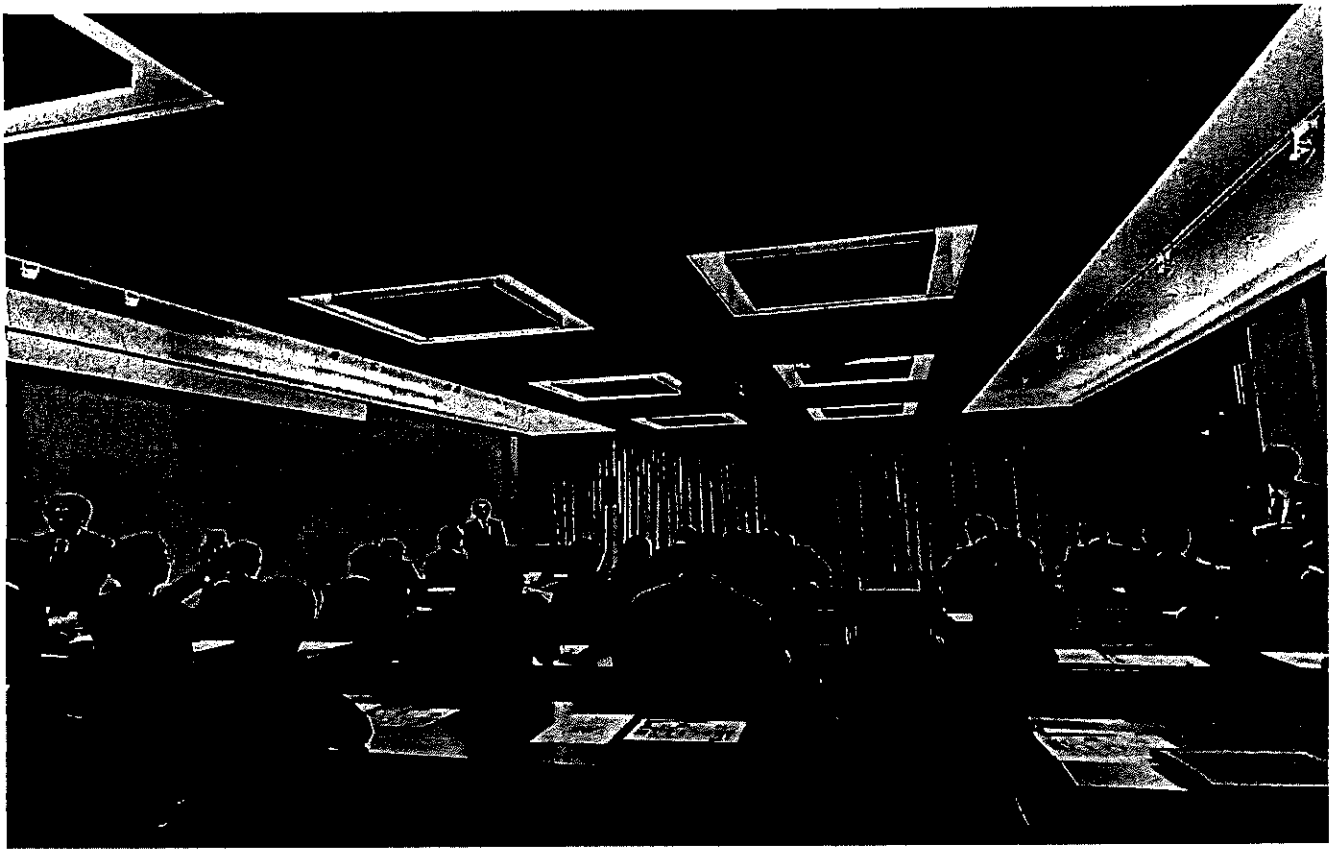
【参加議員】

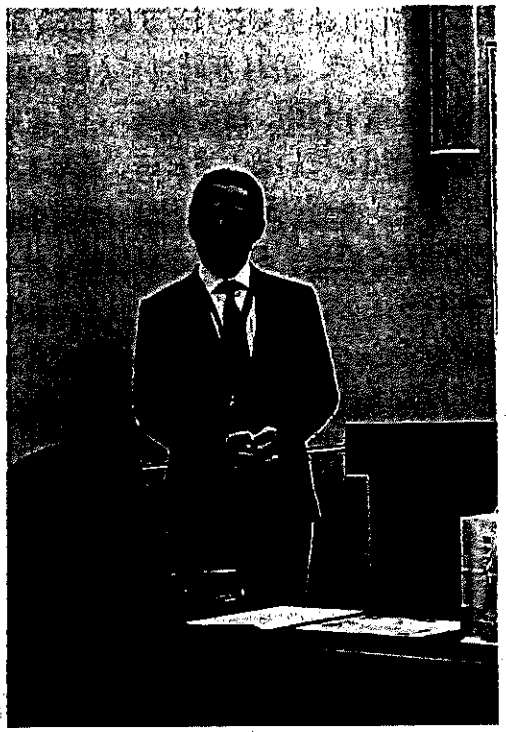
No.	役職	氏名	No.	役職	氏名
1	団長／議員連盟会長	松田 良昭	14	団員	内田　みほこ
2	副団長／議員連盟顧問	森　正明	15	団員	細谷　政幸
3	議員連盟副会長	杉山　信雄	16	団員	市川　和広
4	議員連盟副会長	市川　よし子	17	団員	望月　聖子
5	議員連盟副会長	近藤　大輔	18	団員	須田　こうへい
6	議員連盟副会長	日浦　和明	19	団員	野内　みつえ
7	議員連盟幹事長	田中　徳一郎	20	団員	相原　しほ
8	議員連盟幹事	楠　梨恵子	21	団員	佐藤　けいすけ
9	議員連盟幹事	米村　和彦	22	団員	永井　まさと
10	議員連盟幹事	岸部　都	23	団員	吉川　さとし
11	議員連盟幹事	片桐　紀子	24	団員	松川　正二郎
12	議員連盟事務局長	川崎　修平	25	団員	松長　泰幸
13	団員	いそもと　桂太郎	26	団員	北井　宏昭

視察行程詳細

1	2025 5/27 （火）	羽田空港 台北市	集合時間 08:50 10:50発 13:30着 15:00	 BR189便 専用車 ↓ ↓ ↓	 到着後 ガイド出迎えを受け 台北空港より台北市内 日本台湾交流協会台北事務所 （[redacted]面会） 台北市泊
2	 5/28 （水）	 新北市 台北市	08:30 09:30 11:20 14:00 16:30 18:30	専用車 ↓ 専用車 ↓ 専用車 ↓ 専用車 ↓	 新竹サイエンスパーク視察 桃園市議会 [redacted]議長と懇親 新北市とのサッカー交流試合 新北市議会表敬訪問 新北市議会懇親会場 台北市泊
3	 5/29 （木）	台北市 高雄市 屏東県	07:20出発 08:01発 09:28着 12:00 13:15 14:45 16:30 18:30	専用車 新幹線 到着後 専用車 ↓ ↓ ↓ ↓	ホテル 台北駅 嘉儀駅 富安宮 義愛公 烏山頭水庫風景区 （烏山頭ダム・八田興一記念公園） 屏東県公式訪問 （[redacted]面会） 高雄市泊
4	 5/30 （金）	高雄市 台北市 松山空港 羽田空港	07:45 09:55 11:29 14:30 16:20発 20:05着	専用車 新幹線 専用車 BR190	ホテル 紅毛港保安堂 左官駅（高雄） 台北駅 迪化街（商店街視察）

【行程１】日本台湾交流協会台北事務所





内容：台湾における日台関係と現地情勢の理解を深めるため、日本台湾交流協会台北事務所を訪問し、同所[redacted]氏より台湾の基本情報、政治、経済、日台交流についてレクを受けた。

台湾は人口約 2,340 万人、面積は九州より小さい 36,19 平方 km、一人当たり GDP は日本を上回る 33,983 ドルとなっている。主要産業は半導体や ICT 分野で、世界のサプライチェーンにおいて極めて重要な役割を果たしている。2024 年の総統選挙では民進党が、議会選挙では野党・国民党が第一党となり、対中政策を巡り緊張が続いており、2024 年は対米輸出が対中輸出を 20 年ぶりに上回った。日台関係は非公式ながら草の根レベルで相互に親近感を寄せ合う友好的関係が存在する。台湾人の対日感情は大変良好であり、災害時の相互支援は両者の強固な信頼を象徴している。経済分野では、特に半導体分野での日台協力が進展している。

今後、地方自治体や議員団としてもスポーツ交流はじめあらゆる分野で交流・協力を一層推進していくことが望ましく、本訪問をその一助としたい。

【行程２】新竹サイエンスパーク視察



内容：新竹サイエンスパークは 1980 年に設立された台湾最大の先端産業拠点である。総面積は約 1,471 ヘクタールで、2024 年時点で入居企業は約 584 社、従業員数は約 17 万 7 千人にのぼる。半導体、通信機器、光電子技術、精密機械、バイオなどの先進企業が集積し、TSMC、UMC、MediaTek など世界的企業が進出している。さらに、清華大学、陽明交通大学、工業技術研究院などが近接し、産学連携も活発である。企業誘致には税制の優遇措置や輸出入手続きの簡素化といった行政支援が提供されており、研究開発を促進する仕組みが整備されている。

新竹サイエンスパークにおける「産学官一体型の研究開発拠点」モデルの構築、すなわち大学や研究機関を中心に企業が集積し、行政が企業誘致を積極的に推進する仕組みは神奈川県政の発展に資する。特に行政手続きの一元化、税制の優遇措置といった制度的な取組みや、環境管理・防災対応といったリスクマネジメントを参考に、「相模原ロボット特区」を持ち、ヘルスケア・ニューフロンティア推進を掲げる本県の施策改善に繋げてまいりたい。



【行程３】桃園市議会 [redacted]議長と懇親



内容：5月28日、台湾の桃園市を訪問し、[redacted]議長をはじめ市議会議員の皆様と意見交換を行った。桃園市は台湾北西部に位置し、面積約1,220平方キロメートル、人口約230万人を有する都市で、台湾最大の国際空港を擁し、経済・交通の要として発展を続けている。意見交換では、日本の鉄道や都市インフラ、教育制度などに対する関心が寄せられる一方で、桃園市が進めるスマートシティの推進や、学校施設のICT整備、少子化対策としての子育て支援策など、先進的な取り組みについても伺うことができた。これらは、神奈川県にとっても今後の政策検討において大いに参考となる内容であり、都市間交流の重要性を改めて実感した。今後の継続的な対話と連携で、県政の質を高める一助となるよう努めていきたい。

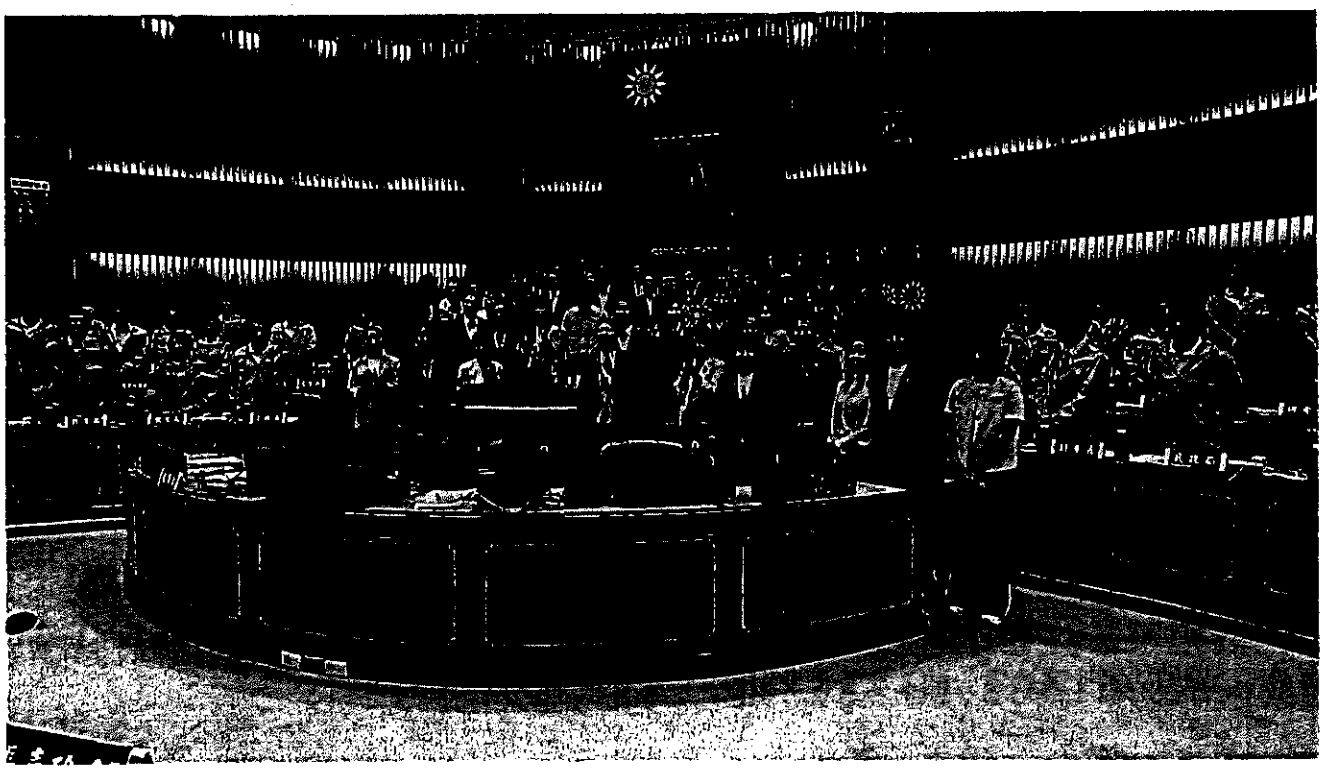
【行程４】新北市とのサッカー交流試合





内容：神奈川県議会日華親善議員連盟と県議会サッカー部メンバーにより、新北市議会議員との親善を目的としたサッカー交流試合が開催された。
言葉が通じない海外の議員と、フェアプレー、チームプレーのスポーツであるサッカーを通じての交流は、言葉を超えた相互理解の場となり、更なる友好関係を深める貴重な経験となった。
また、地元のサッカーチームの方々や、公園を利用している方々、新北市の職員の方々にも熱い応援をいただき、新北市議会との交流はもちろん、市民レベルでの暖かい歓迎に、改めて深甚なる敬意と感謝を表するところである。
これを期に、議会だけでなく、神奈川県と新北市の間でスポーツの分野を通じ、市民レベルでの一層の交流も、歴史的に民際外交を提唱してきた本県として、検討していくべきと実感した。民間団体とも連携しながら、推進していきたい。

【行程 5】新北市議会表敬訪問



内容：神奈川県議会日華親善議員連盟は、訪華団を結成し、姉妹友好提携を結ぶ新北市議会を訪問した。これは、コロナ禍で中断されていた交流の再開と、両議会間の友好深化を目的とする。[redacted]議長からは温かい歓迎を受け、松田団長は新北市議会が唯一の姉妹友好提携議会であること、そして「兄弟のところに戻ってきたようだ」と再訪の喜びを表明した。
今回は初の議員間サッカー交流も実現し、友情はより深まった。新北市議会からは「困った時の友こそ真の友」の掛け軸が、神奈川県議会からは宮内庁御用達の花瓶が贈呈され、両議会の友好の証となった。

式典後、新北市議会 66 名の議員が 400 万市民のために尽力している動画が放映され、議事ホール見学ではより詳しく議会の説明を受けた。併せて、会議中の議場見学という特別な配慮も受け、終始歓迎ムードの中で交流は進んだ。今回の訪問は、両議会の絆を再確認し、今後の多岐にわたる協力関係発展に向けた重要な一歩となった。







【行程５－２】新北市市議会懇親会

内容：5月28日の新北市議会および桃園市議会との懇親会等において、台湾の議員と意見交換をする機会を得た。特に印象的であったのは女性議員の多さと、少なくとも参加された議員の、男女関わらず、その高い語学力、そして国際的な視野の広さである。台湾ではクォータ制が導入され一定数の女性が議会に進出しているが、それに依らずとも選出されている例がある点に、社会全体の意識の成熟を感じた。また、家庭内の役割分担が日本のように固定されておらず、朝食でさえも屋台でとる文化などが、女性の就労を支えていることも印象的であった。台湾の議員は海外の事例にも敏感であり、日本よりも外に目を向けた議会活動を展開していると感じた。アジアの一員として、また中国・北朝鮮の脅威や地震といったリスクを共に抱える立場として、今後も議員間のネットワークを活用し、共通課題の解決に向けて連携していく必要があると強く認識した。

【行程6】富安宮 [redacted]



内容：[redacted] は、明治期に神奈川県（現：横浜市西区）から台湾に渡り、嘉義県副瀬村に巡査として赴任した。彼は台湾語を解さずとも真摯に村民と向き合い、教育・衛生・農業指導に尽力。特に、重税に苦しむ村人のために上申し、戒告処分を受けた後に自ら命を絶ったという経緯から、死後も村を守る存在として [redacted] として神格化され、今日まで信仰の対象とされている。

当日は現地の方々による丁寧な説明を受け、[redacted] が祀られる本殿にて参拝、線香をあげ、手を合わせた。廟の関係者からは心温まる歓迎を受け、信仰と歴史の深さを実感する貴重な機会となった。

[redacted] の出身地が神奈川県であることは、私たち県議会にとって大変誇りであり、本県の歴史を台湾という視点から見直し、交流の礎を再確認する貴重な体験であった。

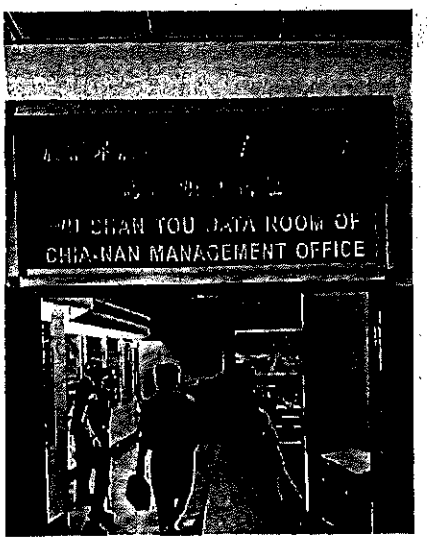
[redacted] の精神と行いは、現代の私たちが見習うべき姿であり、地域社会との信頼関係を築く公務の原点を改めて考えさせられた。

【行程６－２】烏山頭水庫風景区（烏山頭ダム・八田與一記念公園）



内容：台湾南部の台南市官田区にある烏山頭ダムおよび八田與一技師の記念施設を視察した。八田氏は日本統治時代の台湾において、深刻な水不足に悩んでいた台湾南部の農業を救うため、嘉南大圳と呼ばれる大規模な灌漑システムを構想・設計し、中心的役割を担って烏山頭ダムを完成させた。その結果、広大な土地に安定した水供給が可能となり、台湾の農業生産は飛躍的に向上した。彼の功績は現在も高く評価されており、記念像には花が絶えず手向けられ、命日には政府や地域住民による追悼式典が毎年行われている。現地住民の案内や資料展示を通じて、八田氏が単なる技術者にとどまらず、台湾の人々の生活を真摯に支えようとした「心ある開発者」として語り継がれていることが伝わってきた。日台関係の礎とも言える信頼と尊敬の歴史を実感し、今後の両国の交流や協力を深化させる上でも、大変意義深い視察となった。





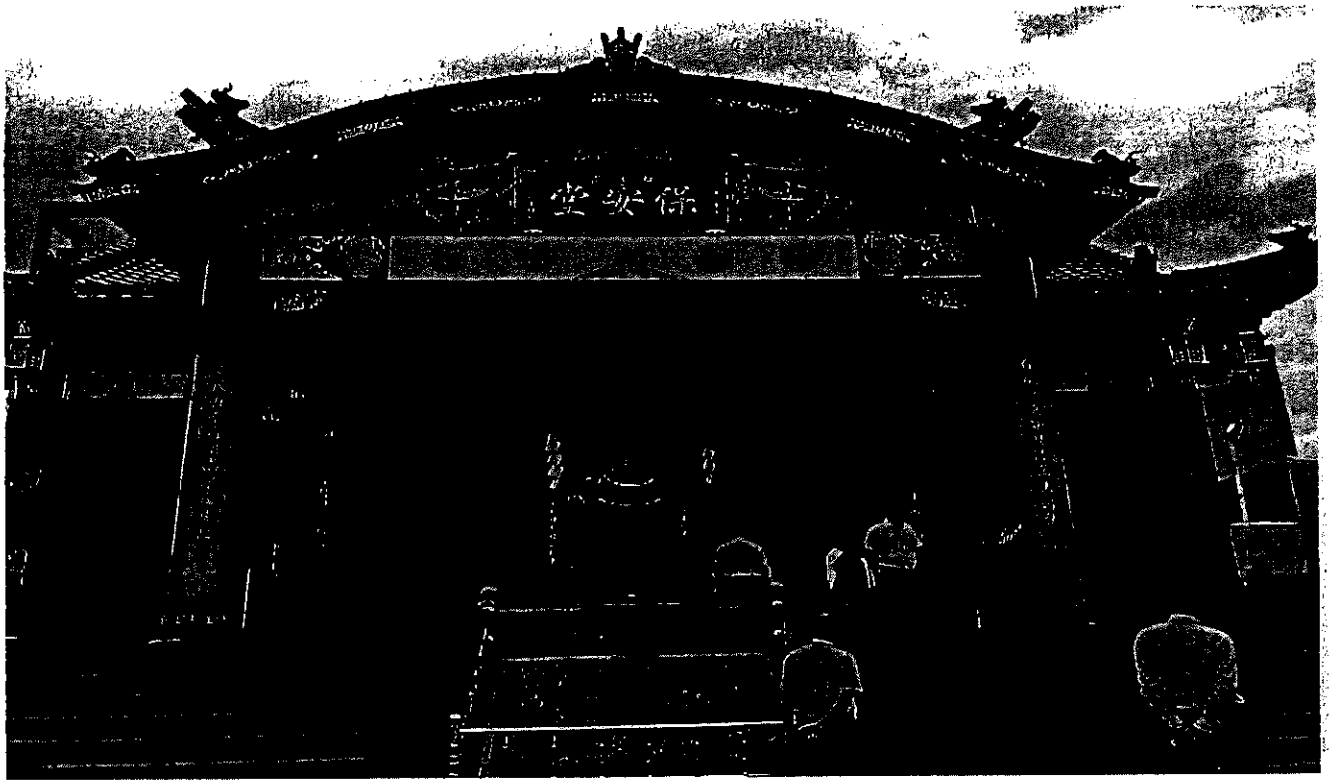


【行程 7】屏東県公式訪問 [redacted]県長面会



内容：私たち訪問団は屏東県庁を訪問し、[redacted]県知事と面会。
屏東県は東日本大震災発生時、多額の義援金と救援物資を日本に送っていただくとともに、心温まる支援表明をしていただいた。
松田良昭訪問団長からは、当時、屏東県を含む、台湾から東日本大震災が発生した後、多額の義援金（約200 億円）、大量の救援物資（約 560 トン）、緊急援助隊の派遣、[redacted]総統をはじめ各界・各世代の方々からのお見舞い、励ましのメッセージなど、心温まる支援をいただいたことへの御礼と、そのことにより日台・台日関係の友好がさらに深まるきっかけとなったことを紹介し、この友好関係をさらに強化していくことが神奈川県議会日華親善議員連盟の務めであると挨拶の中で申し上げた。
[redacted]からは私ども訪問団に対して熱烈歓迎のご挨拶をいただいた後、台湾の方を対象とした世論調査で、「最も好きな国や地域」は「日本」と答えた人が 76%となっていることに触れ、更なる自治体交流の重要性について言及された。
今回の訪問をきっかけに、議連としても屏東県とどのような分野で連携協力ができるかは研究していく余地を感じたところである。
意見交換の中で、鹿児島県との MOU の内容ついて確認し、教育・観光・国際業務などで実質的な協力を展開していることが分かった。
屏東県にある日本や神奈川県とのつながりがある場所などを抽出するとともに、豊富な農水産品を通して交流イベントや観光面での交流など、鹿児島県との取組を参考にしながら WIN　WIN の関係が構築できればこんなに素晴らしいことはない。

【行程 8】紅毛港保安堂



内容：台湾の高雄市に位置する「鳳山紅毛港保安堂」を訪問した。
この保安堂は、松田良昭訪問団長が是非議連のメンバーに知ってもらいたい場所として紹介された場所である。
説明によるとこの保安堂は、旧日本海軍の第三十八号哨戒艇（旧称、樅型駆逐艦「蓬」）とその艦長であった高田又男予備大尉が祀られている霊廟であり、単なる観光スポットではなく、台湾と日本の歴史を正しく理解するために、私たち日本人が知っておかなくてはならない場所であることを認識した。
また、鳳山紅毛港保安堂の境内には、2022 年 7 月にご逝去された故安倍晋三元首相の銅像が建立されている。
説明によると、故安倍晋三元首相の銅像が建立されたのは、安倍元首相の台湾に対する友好の証として、地域住民が感謝の意を表したものとのことである。
台座には「台湾の永遠の友人」と記されていた。
2022 年 9 月の除幕式には総統府の元秘書長である[redacted]ら 300 人以上が参加され、[redacted]は「安倍氏は台湾人が最も苦しいときに、日本社会に対し『台湾有事は日本有事だ』と呼びかけ台湾人を感動させた」などと挨拶をされたとのこと。
つまり、この銅像は、安倍元首相の功績を後世に伝えるとともに、日台の友好関係を象徴である。
私たちは、地域の方々の日本への思いや期待にしっかりと応えられるように努力をしていかなければならない。日台友好を更に進化させるために力を尽くしていかなければならないと強く感じた訪問であった。

参加議員所感

松田良昭（団長／議員連盟会長）「さらなる日華の絆を」

一年延期を余儀なくされた、日華議連の訪華団は、台湾の現地調査、日本統治時代事跡の訪問、屏東県への御礼、そして姉妹議会新北市議会への友好親善、わけても、議員によるサッカーの試合などの目的を持ち、大変に過密な日程の中、団員の皆様の真摯な姿勢は団長として心から感謝申し上げます。

神奈川県議会日華親善議員連盟は、1970年に先輩議員の皆様のご努力により発足、往時の台北県[redacted]との御縁から友好が深まり、2008年に神奈川県議会としては初めての、姉妹議会提携。その後の県市変移に依って新北市となった新北市議会との交流を深めていったところです。

ここで何人かの方から聞かれました、台湾語「リップン　チェンシン」について述べます。この言葉は台湾の人が好み、次の意味を持っています。

「正直、勇気、誠実、勤勉、奉公、清潔」この言葉を字で書くと「日本精神」です。

詳しくは、愛日家を自称し、司馬遼太郎の「街道をゆく」で老台北として登場する蔡焜燦が書かれた「台湾人と日本精神」是非ご一読いただきたい。台湾に残る日本をこれからも探し守りながら、さらなる日華の絆を深めてまりいましょう。

この度は大変に充実した訪華であったと考えています。お世話になりました皆様に御礼申し上げます。

森正明（副団長／議員連盟顧問）「視察を終えての所感」

このたび5月27日から30日にかけて、神奈川県議会日韓親善議員連盟として、神奈川県が災害調停を結んでいる台湾・新北（しんぺい）を訪問いたしました。

まずは訪問に際して、公益財団法人 日本台湾交流協会台北事務所の方をはじめ、関係各位の皆様のご理解と多大なご協力に対し、副団長として改めて御礼申し上げます。

視察全体を振り返って率直に感じたところと致しましては、「平時の時だからこそ、互いの文化・スポーツ・観光を通して　親交を深めていくことが大事」だという点です。

神奈川県と台湾・新北（しんぺい）は、自然災害が発生した有事の際には互いに食料や生活必需品の提供や資機材の貸し出しなどの支援を行う「防災に関する相互応援協定」を結んでいる関係です。2024年台湾東部沖地震の際には、現地の状況と神奈川県に求める支援内容等の連携・連絡をはかり、神奈川県として救援金の募集を募るなど、互いに支えあっております。とはいえ、有事の時だけで支え合う関係性だけでは友好的な関係を維持していくことも難しいと考えております。やはり「平時の時」だからこそ、互いの文化・スポーツ・観光を通して親交を深めていくことが大事だと思っております。

平時の時だからこそ深められる交流があります。今回の訪問視察では、今回視察に向かった県議団のメンバーと新北市とのサッカー交流試合を行いました。新北市のチームは、職員さんと市議会議員さんを中心としたメンバー。サッカーの交流試合を経て、表敬訪問・親睦会を通して、台湾の歴史・平和教育をはじめ、神奈川県との災害協定についてなど、良い関係を継続的に続けていくことを互いに確認しあったところです。

また、今回の視察では、世界の半導体産業の先進地である「新竹サイエンスパーク」をみさせて頂きました。施設の規模感はもちろん、品質管理をはじめ製品生産を支える技術と質の高さを感じさせて頂き、世界に誇る産業をもっている台湾と神奈川県が繋がりをもっていることに対し、産業の観点からも交流を深めることができるとも感じているところです。

「神奈川県にとって台湾は一番身近なアジア」だと認識していただくことを目指している中で、台湾は日本の鉄道インフラ、特に新幹線の素晴らしさを強く感じている国でもありますから、神奈川県としても台湾が誇る半導体の技術力を県内企業が知る機会、提携提案などができる機会をつくっていけければと思っているところです。

今後は、台湾にとって神奈川県がより身近に存在になるような施策や取り組みを後押ししていければと思います。例えば、一つの事例ですが、京成電鉄と台湾の桃園メトロは相互誘客を目的とした連携を行っています。車内広告でお互いを PR して、インバウンド需要の増加を目指しています。互いに観光を PR しあえる施策など、台湾と神奈川県が互いに成長できる施策を提案していければと思っております。

杉山信雄（議員連盟副会長）「台湾視察」

◎日本台湾交流協会

・両国の政治・経済・文化交流について説明受ける

◎忠烈祠は国家の祭典を行い、忠義を表し、殉難烈士を追悼。

・衛兵交代式を通じて台湾有事、徴兵制度等の意義について再認識する。

２８日

◎新竹サイエンスパーク

・TMSC 半導体製造リーディングカンパニーとして AI、5G 等商品化等説明を受ける、本県京浜臨海部再開発における企業誘致施策について

◎新北市議会とのサッカー交流試合

・スポーツを通じての人的交流の意義を認識する。

◎新北市議会訪問

・広報スペース（新規）見学する。新北市議会の歴史、歴代議長はじめ神奈川県を含め友好提携議会の紹介等議会活動をアピール。議会と市民交流スペースの位置づけと認識する。

２９日

（台南市議会訪問）

（高雄市議会訪問）

◎屏東県訪問

・県長との意見交換。コロナ禍における医療品（マスク等）提供に対するお礼。

３０日

紅毛港公安堂

・第２次大戦時の戦没者慰霊に対する台湾人思想について

●現在、世界ではウクライナをはじめ、中東などでも新たな紛争が生じ、国際的緊張が続いている。台湾もまた、「台湾有事」という言葉が示すようにその例外でない。国内においても、オーバーツーリズムや外国人労働者問題、そして最近では「日本人ファースト」が大きく取り上げられたように、多文化共生や国際協力の在り方についての議論が活発化している。そのような状況下、今回の視察は歴史認識を含め、机上論だけでなく新北市議会とサッカーを通じた交流の機会が持てたことは特に有意義であった。フェアプレーの精神により、実際に体を動かして相手チームと勝敗を決し、試合終了後はその結果に関係なくお互いの健闘を称えあう。こうしたスポーツの在り方は、単に相手を打ち負かすだけの議論にはないものであり、このスポーツによる人的交流によって新平市議会とさらに深い関係を築けたと考える。TMSC については、２０２３年京浜臨海部の JFE 高炉廃止に伴い再編整備計画が進まず、熊本第２工場の進展も不透明の中、２２０ヘクタールの土地有効利用として企業誘致施策を取り組んでいきたい。

市川よし子（議員連盟副会長）

この度、日華友好議員連盟の一員として再び台湾を訪問いたしました。前回より一層発展した台湾の姿に感銘を受けるとともに、半導体を中心とした経済成長と社会の活力には、わが国が学ぶべき点が多くあると感じました。また議会表敬などを通じて、政治や行政の場で多くの女性が活躍する姿に触れ、女性議員としても大きな励ましをいただきました。更に神奈川県との経済連携の可能性も改めて実感しました。親日を超えた熱い友情に触れた今回の訪問を機に、両国のさらなる友好と発展に尽力してまいります。

近藤大輔（議員連盟副会長）「台湾訪問を振り返り」

日台友好親善議員連盟で台湾を訪れ、台湾人は本当に親日な方々だとことさらに思いました。
日本との国交がない中で、われわれ議員連盟が台湾の地方議会や地域の方々とつながりを持ち続けることが日台の友好な関係を支える一助になると確信します。
台湾訪問中に訪れた新竹サイエンスパークの企業集積は目を見張るものがありました。それは、本県のセレクト神奈川ネクストのような補助金や減税などのインセンティブはなくとも多国籍な成長産業が集まっているということです。電力などの都市インフラが整備されていることやそもそも新進気鋭な企業が集まることにより多彩なイノベーションが期待されるとのことであり、本県も大いに参考にすべきと思いました。今後も我々のような議員連盟などが民際外交を展開し両国間のつながりを深化させていきたいと思います。

日浦和明（議員連盟副会長）

今回の台湾視察において、特に深い感銘を受けたのが、八田與一技師の功績でした。日本統治時代、台湾南部の水不足に悩む農村地域に、嘉南大圳と烏山頭ダムという大規模な灌漑施設を建設し、農業の発展と地域の繁栄に大きく貢献されました。その遺産は今なお台湾の人々の暮らしに息づいており、現地

には記念碑や銅像が丁寧に整備され、命日には多くの市民が集い、追悼式典が厳かに執り行われています。台湾という国で、日本人がここまで敬意をもって祭られていることに強い驚きと誇りを感じると同時に、この事実を日本人の多くが知らないという現状に、もどかしさも覚えました。[redacted]のように現地の人々と心を通わせ、真摯に尽力した先人の存在は、日台の絆の象徴であり、今後の国際関係においても大きな意義を持ちます。私自身、この貴重な歴史的事実を積極的に発信し、日本と台湾の友好がさらに発展するよう努めていきたいと強く感じました。

田中徳一郎（議員連盟幹事長）

今回、神奈川県議会・日華親善議員連盟を以てして、約３０名から成る訪問団を組んだ議連視察の目的としては大きく二つあります。

先ず一つ目には、正式な国交が結ばれていない中華民国台湾との両国間友好に於いては、外務省を主とする日本政府による直接的な働きかけが難しい事から、本県地方自治の二元代表の一翼を預かる私たち議会人による訪台にこそ、大きな意義を帯びるものとなります。

次に二つ目としては、これまでのコロナ禍に於いて、台湾・屏東県より本県に多大なる支援物資（当時は入手困難であったサージカルマスク等）を寄贈して頂いた経緯もありましたので、そちらの深甚なる御厚意に対しての儀礼として、御礼方を申し上げるべく現地へと赴いたものであります。

この度、県民の皆様から付託と信頼をお預かりしている神奈川県議会の議連視察として、この二つの目的を確かに果たす事が出来ましたので、その旨を此処に報告致します。

楠梨恵子（議員連盟幹事）

このたび台湾を訪問し、現地の歴史と産業の両面から深い学びを得る機会をいただきました。中でも、[redacted]の功績に触れたことは非常に印象的でした。[redacted]は日本統治時代に、烏山頭ダムおよび嘉南大圳の建設を通じ、台湾南部の農業を飛躍的に発展させる礎を築かれました。現地の人々との信頼関係を大切にし、尽力された姿は、今も台湾の方々の尊敬を集めております。

また今回は、新竹サイエンスパークを訪れることもできました。世界をリードする半導体企業が集積するこの地では、革新を続ける技術力と産業基盤の強さを実感いたしました。特に TSMC に代表される企業群は、卓越した技術力とサプライチェーンの強固さを背景に、世界経済に多大な影響を与えております。

こうした歴史的背景と現代の技術発展の双方から、日本と台湾の結びつきの深さを改めて認識いたしました。今後も互いに尊重し合いながら、より良い未来を築いていくことを心より願っております。

米村和彦（議員連盟幹事）

神奈川県議会日華親善議員連盟の一員として台湾を訪問し、日本台湾交流協会台北事務所にて、日台間の地域連携の在り方や、経済・観光・人材交流の可能性について意見交換を行いました。新竹サイエン

スパークでは、半導体を中心とする先端技術産業の集積状況や、産学官の連携体制、環境対策の取組などを視察しました。続いて、TSMC工場建設現場を訪問し、巨額の設備投資や建設規模の大きさ、関連産業の集積が地域経済に及ぼす効果、さらには米中関係における地政学的リスクを見据えた国策的取組であることを実感しました。また、桃園市・新北市・屏東県の各議会を訪問し、選挙制度や議員構成について伺う中で、若手や女性議員の多さが印象的でした。屏東県では、温泉資源を活かした観光振興や農業支援施策について学び、地域行政の多様な可能性を感じました。
日本と台湾の歴史的な絆と現在の友好関係の深さを再確認し、今後も神奈川県政に活かしてまいります。

岸部都（議員連盟幹事）―「新竹サイエンスパーク」を視察―
２０１９年から６年ぶりの訪問となりましたが、変わらぬ温かいおもてなしを受けました。今回は２日目に、今、全世界から注目されている台湾の半導体大手「TSMC」の本社がある新竹のサイエンスパークを訪問する機会を得ました、ハイテク産業が集積する「新竹サイエンスパーク」では、産業クラスターの構築で産官学の相乗効果が生み出されています。
1980年に科学技術を国に根付かせることを目的に「新竹サイエンスパーク」は設立され、企業のみならず、研究機関（ITRI等）やその他高等教育機関（陽明交通大学、清華大学他）が数多く立地、半導体産業の先駆けとなったUMCもTSMCも園区内に設立され、90年代中盤から台湾IC産業の中心地となっています。設立当初は減税などの優遇策を講じて企業を誘致していたそうですが、今やそうした誘致策や優遇措置はなくても国内外から申し込みが殺到しているそうです。
現在、「新竹サイエンスパーク」は台湾の科技部（科学技術省）の一部となっており、園区内には政府機関である経済部、財政部、環保署、交通部、税関のほか、郵便、通信、水道、電力、金融の各機関が立地しています。これにより、ワンストップサービスで入居企業をサポートするなど、立地企業が本業に専念できる環境を整えられています。その他、園区内には、実験中学、社員寮（住宅）、診療所、公園があり、シャトルバスも運営する等生活インフラ全般が整えられ、入居企業やその従業員のニーズに迅速に応えられる仕組みが存在しています。こうした周辺環境や魅力的な住環境を整備もまた、立地企業が豊富な人材を集めるための重要な要素となっています。
日本でも北九州市が若松区の学術研究都市を研究拠点に半導体の関連企業や大学などの研究機関を集め、「サイエンスパーク」の北九州モデルを開発、国内外の大学や研究機関と共同で自動運転や人工知能などの研究を進めていく予定で、今後10年間で200件の企業誘致を目指していくと報道されています。人手不足、労働力不足が問題視される神奈川にとっても今後の企業誘致や工業団地建設、また、新たな産業誘致の参考となる視察となりました。

片桐紀子（議員連盟幹事）
5月28日の新北市議会および桃園市議会との懇親会等において、台湾の議員と意見交換をする機会を得た。特に印象的であったのは女性議員の多さと、少なくとも参加された議員の、男女関わらず、その高い語学力、そして国際的な視野の広さである。台湾ではクォータ制が導入され一定数の女性が議会に

進出しているが、それに依らずとも選出されている例がある点に、社会全体の意識の成熟を感じた。また、家庭内の役割分担が日本のように固定されておらず、朝食でさえも屋台でとる文化などが、女性の就労を支えていることも印象的であった。台湾の議員は海外の事例にも敏感であり、日本よりも外に目を向けた議会活動を展開していると感じた。アジアの一員として、また中国・北朝鮮の脅威や地震といったリスクを共に抱える立場として、今後も議員間のネットワークを活用し、共通課題の解決に向けて連携していく必要があると強く認識した。

川崎修平（議員連盟事務局長）

この度の神奈川県議会日華議員連盟による台湾視察を通じて、台湾の観光・歴史文化、半導体産業を中心とした経済施策の現状などを確認することができ、多くの学びを得る機会に恵まれた。

台湾の主要産業である半導体やICT分野は、世界経済とテクノロジーの発展において極めて重要な役割を担っており、仮に台湾製の半導体が供給停止に陥れば、世界中の製造業が機能不全になると言われるほど、世界のハイテク産業の根幹を担っているという事実を、現地に立って実感させられた。

中国との緊張関係や、自然災害リスクを抱える中で、研究開発への投資や人材育成、積極的な国際協力への取り組みなど、台湾は小さな国土ながら世界に頼られる存在であり続けようとする覚悟のようなものを感じた。自国の技術力への信頼こそが、台湾の外交的・経済的な盾にもなっているという点は、日本にとっても非常に示唆に富むものである。

今後も台湾との、経済・観光・文化の提携は不可欠であり、今回の視察を通じて、より一層の神奈川県との結びつきを強化し、両地域の信頼関係の構築することができればと思う。

いそもと桂太郎

新竹サイエンスパーク（Hsinchu Science Park）は1980年に設立された台湾を代表するハイテク産業拠点で、世界トップレベルの半導体製造技術と緻密な産学官連携システムを備えています。現在は約584社、17万人以上が働き、半導体、光電、通信、バイオ医薬などの産業が集積しています。TSMCやUMCといった世界的企業が立地し、清華大学やITRIなど研究機関と連携した産学エコシステムを形成。台湾GDPの10%以上を支える中核地です。現在はLongtan地区での大規模拡張が進行し、2nm半導体工場など最先端技術の導入が予定されています。この現在進行中の拡張プロジェクトにより、更なる高付加価値プロセスへの移行が現実化しつつあり、電力・環境課題への対応が今後の成否の鍵となります。また、脱炭素化や再生可能エネルギー導入、スマートグリーンパーク構想など、持続可能性も重視していました。そして、AIやバイオなど新分野への展開や、地政学リスクへの対応も今後の課題であると感じました。世界最先端の技術革新と環境への配慮を両立しながら、グローバルな競争下でさらなる発展が期待される工業団地であると思いました。本県の今後の産業の発展やその育成を考える上で、大変参考になる視察調査となりました。

また、行政や議員等との友好交流事業についても直接話し合う機会は有意義であり、互いの理解を深め、各々の地域の特徴や様々な取り組みを学び知ることは重要であり、双方の発展には信頼関係の構築が欠

かせません。今後も今回のような交流事業の継続は必要な事であると、改めて肌で感じることができました。

内田みほこ「「台湾」の半導体産業の集積地と将来展望について」

私が「台湾」に訪れたのは、実に10年ぶりであり、以前と違うのは、「半導体産業」の中心地として活気に満ちていることでした。新竹サイエンスパークの現地調査では、広大な敷地に建設中のTSMC（タイワンセミコンダクター・マニファクチャリング＝Taiwan Semiconductor Manufacturing Company）の工場棟があり、今後、高雄市にも建設予定とのことです。台湾で創業されたTSMCの時価総額は、約139兆6500億円で、世界で9番目に価値のある企業として評価されています。最先端半導体受託製造を専門企業として、世界でトップシェアを誇り、アメリカ大手企業の「Apple」や伸び盛りの「NVIDIA」が、半導体チップの製造を委託していることも、TSMCの業績が上がっている一因といえます。台湾は今後、大変な力をつけ、GDPも上がって来ると考えます。

TSMCは、アメリカやシンガポール等にも工場の拠点がありますが、日本では熊本県のTSMC（2024年12月27日稼働）の工場があり、委員会で現地調査に行きましたが、連携する日本大手企業であるソニーや東京エレクトロン、デンソーなどがあり、「百聞は一見にしかず」とはこのことで、勉強になりました。このように、TSMCは、この他にも、三菱商事、三井不動産、鹿島建設、トヨタ自動車、日本通運といった20社を超える関連企業との強い繋がりがあり、経済波及効果は、今後10年で約11兆2000億円と試算されています。

この九州より少し小さい島、台湾は世界でも屈指の最先端のサイエンス分野の牙城となり、日本への影響も多大であるということを認識し、私ども議員もその連携策を念頭においていくべきであると思います。米、[redacted]政権の関税の影響は様子見ですが、堅調なＡＩ需要と最先端の半導体製造で、アジアを牽引し、わが国も同様に最先端技術国として関係強化を期待するところです。

細谷政幸

去る、2025年5月27日から30日まで3泊4日で神奈川県議会議員松田良昭議員を団長に26名の超党派議員で台湾の台北市、新北市、高雄市、屏東県の視察に参加させていただきました。私にとっては2度目の台湾でありましたが、台北の松山空港に降り、初めに日本台湾交流協会台北事務所に訪問し[redacted]と面会し今回の訪問の趣旨を伝え視察がスタートしました。

翌28日には新竹サイエンスパークを訪れ、ここは国家の計画経済戦略の一環として1980年に創設され、653ヘクタール（東京ドーム140個）の広大な敷地に世界各国の最先端の科学企業や研究施設が置かれ、日本人を含む多くの外国籍の方が勤務され付近の住宅街に居住しているとの事です。新竹市には先端技術を研究する工業技術研究院、工業系の研究が盛んな清華大学と交通大学が立地しており、国家プロジェクトとして次世代の人材発掘とテクノロジーと未来を考える最先端の施設だなと思いました。新北市議会を表敬訪問し交流を深めました。

同日28日には[redacted]と懇談し、その後、短い時間ではありましたが新北市とのサッカーの

交流試合を行い男性も女性もグランドでプレーをし、一緒に汗を流した交流でありました。結果は4：1で勝利しましたが何より体の不調を訴える方もいなかったのが幸いです。その後新北市議会を表敬訪問し、新北市議会と懇親会を行いました（一気飲みすごいね～）
翌29日は台湾の新幹線（日本の車両）に乗り台北から屏東県へ向かい台湾で神になった日本人警察官を祀る富安宮（義愛公）を訪れ、烏山頭ダム（台湾では中学生の歴史教科書にも掲載されている八田與一技師。台湾の農業用水施設としてのダムや関連施設を建設し台湾最大の穀倉地帯が生まれた。日本人活躍してますね）を視察し屏東県を公式訪問し[redacted]に面会をし、[redacted]の話を聞き、屏東県は漁業や農業が盛ん、トロピカルフルーツ栽培も盛んな温暖な南の楽園を目指す取り組み等2024年には鹿児島県と交流協定締結（MOU）等和やかな懇談でありました。
最終日30日は高雄市にある日本海軍の乗組員、145人を祀った紅毛港保安堂訪れ供養させていただき、安倍元総理は生前、台湾有事はすなわち日本有事という言葉に感銘を受け、安倍元総理のご逝去後、台湾と緊密なパートナーとして重要な役割を果たしてくれた安倍元総理に感謝を込めての銅像が建てられたようです。今回の視察は非常にハードな日程でありましたが松田団長、森サッカー部監督を始め26人がそれぞれの役割を果たした素晴らしい視察であったと思う。
視察先では大いに歓迎を受け参加された皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

市川和広
台湾を取り巻く状況を洞察することで国際情勢が分かると言われていますが、私の関心事はなんと言っても「台湾周辺の海域が今後どうなっていくのか」です。
輸入依存国の日本にとってこの海域は重要なシーレーンであります。
国民生活にとって大きな影響のあるこうした事について、これからも正しく理解をしていく必要性を強く感じました。
外交、安全保障は国が行うべきものでありますが、私たち地方議員も積極的に勉強し、国民生活を守るための発言をしてまいりたいと思います。
また、日本台湾交流協会台北事務所を訪問し、[redacted]より、台湾情勢や日台関係についてお聞きした中で、2024年の訪日台湾人観光客は604万人で、外国旅行者の約6割（台湾人口2,340万人）が日本へ来られているという話しがありました。
私の地元藤沢市にも、台湾から多くの観光客に来ていただいておりますが、さらに地域資源の掘り起こしや工夫をすることにより、今まで以上に選んでいただける藤沢市になるように研究してまいりたいと思います。
大変貴重な機会をいただいたことに心より感謝申し上げます。

望月聖子
日華親善友好議員連盟の台湾訪問では、3泊4日で現時点での世界の中の台湾の立ち位置、これから台湾がどの様にして成功を成し遂げ持続・発展・突き抜けようとしていくのかを目の当たりにしました。

特に昨今の社会情勢に危機感を募らせ、多様性を認め合い、サステイナブルな社会の構築を目指す女性や若者の政治参入も著しく、躍進している様子でした。その背景には、SNS の普及や情報の発信力も大きく手伝っているとのことです。国民も情報を取り、自分の国をどうしていきたいのかという意思決定をしたいという若者たちも急増しているのではないかと推測します。その点で大きな影響を及ぼしていると思うのが教育。教育にどのように政治や、行政が関わり、保障をしているかということの重要性に改めて気づきました。
国土も小さく、人口も少数の国ながらも、世界のトップランナーとしての誇りとバイタリティーを強く感じました。今後も継続的に、台湾との親交を深めてまいりたいと強く感じております。

須田こうへい
日華親善議連として台湾を訪問し、日本台湾交流協会台北事務所で意見交換を行い、日台の地域連携促進を確認した。また、新竹サイエンスパークを視察した。同施設は半導体等の先端産業が集積し、産学官連携や環境対策に優れ、神奈川県における技術集積型拠点形成のモデルとして極めて有益であった。
桃園市議会では、議長から熱烈な歓迎を受け、また、新北市議会とはサッカー交流試合を通じて議員間交流を深めた上、議会を表敬訪問して相互交流を深化させた。さらに、南部の屏東県を訪れ、県長と面会し、農林水産業・観光を軸にした施策の発展について意見交換を行った。
親日国とは聞いていたが、現地での歓待は予想をはるかに超えるものであった。視察を通じ、郷土の英霊となった日本人の様々な功績を伺い、また、亡くなられた安倍総理を祭る神社も現地視察できたことは貴重な経験となった。今後とも、神奈川県議会議員の一員として、日本・台湾間での幅広い交流を深め、良好な関係を築いてまいりたい。

野内みつえ
日本台湾交流協会台北事務所にて[redacted]より日台関係と台湾情勢について伺ったことを踏まえ、視察先で桃園市議、新北市議、屏東県の方々と英語で情報交換、意見交換をした。台湾情勢については、現地視察をすることで理解できる肌感覚が多々あり、神奈川県議会として何ができるのか整理しておく必要があると改めて思った。親日の台湾は半導体が好調で、1 人あたり GDP が日本を抜き、著しい経済発展が見込まれる。今後も台湾との関係性を深めるため、一層の努力が必要である。
新北市議会を中断してまで私達の訪問を歓迎してくださったことをとってみても、これまで先人達が深めてきた信頼関係や友好関係を即座に理解するところであった。
八田與一記念公園や紅毛保安堂が、その最たるものである。
こうした背景を存続し、国際情勢のセンシティブな部分を配慮しながら、平和維持を目的として、
文化や技術を通して、神奈川県議会との間で交流を深めることが重要である。

相原しほ

このたび神奈川県議会日華親善議員連盟の一員として台湾を訪問しました。日本台湾交流協会台北事務所では、日台双方の現状や課題について伺い、新竹サイエンスパークでは台湾の高度な半導体産業を視察し、地域発展の在り方を学びました。さらに新北市議会ではサッカーを通じたスポーツ交流を行い、屏東県では[redacted]から、コロナ禍に神奈川県へ医療物資を支援いただいた際のお話を伺いました。どの訪問先でも熱烈な歓迎を受け、台湾の皆さまの親日ぶりと温かさに胸を打たれました。とりわけ女性の政治参画やリーダーシップの場面にも触れ、共感と刺激を受けました。今回の訪問を通じて、日台の信頼関係が地域の安全保障や経済、文化面でも大きな支えとなっていることを実感しました。こうした草の根の交流が県政の発展にもつながるよう、今後も女性議員として橋渡しの役割を果たしてまいります。

佐藤けいすけ

台湾視察では、新竹サイエンスパークと烏頭山ダムが特に印象深いものでした。台湾では半導体産業の発展に大量の水が必要とされ、新たなダム造成を進めるなど、水資源の確保と需要管理が産業基盤を支えています。また日本人である八田與一技師による烏頭山ダムは灌漑施設として整備され、台湾を穀倉地帯へと変貌させた歴史的事業です。山地の割合が高く、人口2,000万人を超える台湾が、水の需給を巧みに調整し、産業と農業を成長させた姿勢は大いに学ぶべき点があります。日本そして神奈川県においても、半導体企業の誘致や食料自給率の向上の課題を考える上で、水資源の安定的な確保は喫緊の課題です。本県は渇水に強い県ではありますが、水資源を戦略的に使用していくという視点は本県で必要ではないかと感じました。

集積される産業立地の意義を考えると、例えば本県でも浄水場の統合など水資源の効率化が図られていますが、大企業の敷地跡地活用なども検討される中で、今後本県の水資源の戦略的に考え、水利用の在り方を見直す契機としていくべきと考えます。

永井まさと

今回の台湾視察を通じて、同国が世界をリードする半導体産業の中心地として、圧倒的な競争力と独自の成長モデルを築いている現状を目の当たりにしました。新竹サイエンスパークでは、設計から製造、後工程までが集積し、行政・産業・地域が一体となったクラスター形成と、未来を見据えた持続可能な開発への取り組みが進んでいることに強い印象を受けました。さらに、かつて日本が関わった歴史的施設や、台湾全土での日本に対する親しみを肌で感じ、民間レベルでの深い絆と長年の友好関係の積み重ねを実感しました。特に屏東県では、コロナ禍の際に医療物資支援をいただいた御礼を直接伝えることができ、自治体間の交流の意義を改めて確認しました。また、超高齢社会に対応する先進的な取り組みや農水産業振興策など、地域の課題解決に向けた実践例も学びとなりました。今回の経験を通じ、日台間のさらなる友好と信頼を深めるとともに、地方自治体同士や民間交流の一層の推進が重要であると再認識した次第です。

吉川さとし

今回の日華親善議員団による台湾視察では、(公財) 日本台湾交流協会や新竹サイエンスパーク、屏東県政府、新北市市議会、そして八田與一が建設した烏山頭ダムを訪問し、多くの学びを得ることができた。台湾は経済成長が著しく、九州との経済的な親和性や、観光・貿易面での深い関係性を実感した。特に新竹サイエンスパークでは、半導体産業を中心とした世界的な産業集積の現場を目の当たりにし、イノベーションの重要性や人材育成、国際連携の在り方について多くの示唆を得た。また、新北市市議会では、現地の議会運営や地域政策の実情を学び、地方自治の多様性を感じた。烏山頭ダムでは、日本人技師八田與一の功績が今も台湾で尊敬されていることに感銘を受け、歴史的な日本と台湾の絆の深さを再認識した。各地で自治体間交流の重要性や地域課題への先進的な取り組みを知り、今後の神奈川県の地域づくりや国際交流に大いに参考となる視察であった。

松川正二郎

初めての訪台は、台北のみならず台南にも足を延ばすことができ、非常に有意義な視察となった。新北市議会では議員の方々と交流し、議会活動をはじめ、新北市の世情もお伺いすることができた。主観ではあるが、台湾については、街に活気があり、そこに暮らす人々は元気であった。日本が抱えるような長引く閉塞感は微塵も感じられなかった。

台南へは、日本の新幹線技術を導入した台湾高速鉄道を利用したが、その乗り心地から我が国の技術力の高さを再認識した。台南では富安宮及び烏山頭ダムを視察した。日本国の台湾統治時代の先人たちの功績に初めて触れ、気骨ある、高潔な行動に感銘を受けた。富安宮では、当時の人々の信仰心や地域との関わりを、烏山頭ダムの建設では八田與一技師の献身的な働きを通じて、古き良き日本の精神性、あるいは価値観の根源に触れたように感じた。

温故知新、忘れかけている日本の大切な心を、改めて見つめ直す貴重な機会となった。

松長泰幸

台湾には、これまで数回訪れていますが、今回は初めて訪れたところも多数あり、興味深い視察となりました。特に、戦前に日本が建設したコンクリートをほとんど使用しないセミハイドロリック工法の烏山頭ダムは、当初予定の耐用年数を超えて使われていて、今でも台湾の方々にとって重要なインフラとなっていました。建設者の八田與一の銅像もあり、日本統治時代のことを公平に判断していることには感謝しています。また、新竹サイエンスパークを視察しましたが、成長著しい手半導体企業のTSMCを筆頭に、経済も日本同等に発展した今では、台湾は親日国の隣国として、色々な面で対等に交流を深めていけると考えます。

また、中国と台湾の緊張が高まる中で、実際に台湾の地方議員は、どのように感じているのか、直接聞いてみましたが、なかなか本音は言わないでしょうが、意外に切迫感は感じられませんでした。同じ漢字を使うアジア圏の民族同士、平和交流を継続して続けていきたいと考えます。

北井宏昭

≪日本領事館≫

一般的な情報ばかりで残念だった。

いろいろ事情もあるのであろうが、もっと踏み込んだ「裏話し」のような情報を提供してもらえれば有り難かった。

≪新竹サイエンスパーク≫

「成長産業の集積」というものは、このレベルで実行してはじめて集積になるのだ、と認識させられた。

本県のみならずわが国における集積など、世界レベルに遠く及ばないと感じる。

中途半端な集積では、世界シェアを取ることなどありえない。

徹底的な集積せずして集積とは言わせない、というくらい攻めて行かないと資本主義世界経済を勝ち抜くことは出来ないと認識すべきである。

≪新北市議会≫

新北市議会の本会議を視察することが出来た。

斬新で画期的だったのが、発言者以外の出席は求められていないこと。

われわれ神奈川県議会はもちろんのこと日本国内の議会における本会議は、全員出席が原則だと思う。

本会議を開催する目的は、発言機会の有無にかかわらず議員全員の立会いの下での発言・質問・答弁による議事録をつくることと認識している。

その立ち合いの必要性については、わが国で議会の始まった明治時代の記録方法や記録媒体のレベルを鑑み、議員立会いの下というのが原則だったであろうと察するが、現代の記録媒体の進化を考えれば、発言機会の無い議員全員が立ち会う必要性があるとは思えない。

本県における議会運営の見直しについて、大いに参考になった。

≪新北市議会議員との意見交換≫

すでに日本と台湾の国民レベルの友好感情は、非常に良いと感じる。

経済交流も、同様。

両議会における政治的連携も、日華友好の次の段階に進むことを望む。

台湾有事などと言われる現在において、日本も台湾も中国との戦争など望んでいない。

何が何でも戦争は避けるべきである。

そのために必要な連携を模索し、具体的な行動を起こすことが、新北市議会と神奈川県議会との重要な役割である。

次の機会では、そのことを掘り下げることにする。

≪富安宮≫

自死された巡査＝[redacted]については最下級の巡査にもかかわらず、台湾人現地住民を守った英雄として扱われていた。

裏を返せば、現地住民を弾圧し、現地住民から搾取する日本人による支配が当たり前の時代だったことがうかがえる。

その当時の日本人支配とその後の蒋介石による台湾支配との比較により、親日派が多いのかもしれない。

そうであると仮定した上で、台湾との連携を慎重に深化させることが、今後のさらにより良い関係構築

につながると確信する。
民進党政権の方針により、中正紀念堂の衛兵交代式を廃止にした理由は、個人崇拝・権威崇拝の排除とのことであるようだが、蒋介石の評価そのものも日々刻刻変化していることの表れであると考える。
そのことも念頭に置いた上での日台関係構築のヒントを得た。

≪八田与一ダム≫
すべてが台湾人のためのダム建設であった、というわけではなく、当時の日本人の食糧確保のための要素も大きくありながら、ここまで日本人を評価してくださることに感謝しかない。

≪屏東県≫
屏東県と鹿児島県とのMOU締結のきっかけは、民間の一般交流からであったことから、本県も民間の交流事業への支援を拡大すべきと感じた。
メインは観光ビジョンの一致のようであるが、教育分野や経済開発にまで拡大させる構想であるため、鹿児島県にとっては大きな成果である。
屏東県はさらに「食」をテーマに経済発展を目指しているが、漁業・農業への支援を拡大することで品質向上を促すとのことで、本県の今後の課題と認識する。

≪紅毛港保安堂≫
台湾人が、安倍晋三氏を評価する根拠として、安倍氏が国際関係の中で台湾を、主体的な構成員として扱ってきたことにある、と認識することが出来た。
もちろん、1972年の日中共同声明に相反する行為ゆえに、中国からの反発は容易に察せられる中での扱いである。
このことは、今後も日台関係・日中関係の最大のテーマとして、避けて通れぬことと肝に銘ずるべきであろう。

≪総括≫
日本から見た台湾が、台湾独立を目指しているのではないか、と思われがちだと感じる。
今回、実際に台湾の４つの地方議会議員と意見を交わすことが出来たが、その多くの方々は現状を維持することを第一に求めていく、とのこと。
このあいまいな状況とも思える「現状＝中華人民共和国が認めることのない一国二制度」を、日本人としてどれだけ理解出来ているのか、と考える。
同時に、わが国・日本の現状についても、真の独立国家とは言い難いところもあることを再考する。

総括

神奈川県議会日華親善議員連盟（松田良昭会長）による台湾研修を5月27日から3泊4日で行った。
「台湾は緊密な経済関係と人的往来を有する極めて重要なパートナーで、大切な友人」であることを明確に確認した研修でありました。
日本台湾交流協会台北事務所では、2024年の訪日台湾人観光客は604万人で、外国旅行者の約6割（台湾人口2,340万人）が日本へ来られているという事実をお聞きしました。
神奈川県においてもインバウンドには力を入れておりますが、議連のメンバーそれぞれの地元においても、日台のこの様なデータを活かして取り組みをしていくことの重要性を感じたところです。
半導体製造工場最大手TSMCはじめ多くの企業が集積している新竹サイエンスパークでは、
[redacted]所長から世界一と言われている半導体産業クラスターの取組についてお話をお聞きしました。
神奈川県においても産業誘致の取組みとして、県内自治体が半導体企業を誘致する際に、しっかりと支援していくことを打ち出しています。
半導体産業へどう関わっていくかを研究することは大変重要です。
今後の取組みを考えていく上で貴重な話をお聞きすることが出来ました。
新北市議会、屏東県を訪問した際には、改めて、日台・台日の友情関係が強く結ばれてていることを認識しました。
東日本大震災が発生した際には、多額の義援金だけでなく被災地でのボランティア活動、新型コロナウイルスが蔓延した際には日本各地にマスクなどの物資を届けてくれました。
こうした事実を忘れることなく、日台・台日の交流、友好を議会同士で定期的に行っていく意義を強く感じました。
今回はサッカー交流という新しい取り組みを行いましたが、議連としてお互いにWIN　WINとなる関係が構築できるように今後も努力が必要です。
更には、台湾の歴史を知るために、富安実義愛公、烏山頭ダム・八田與一記念公園、紅毛港保安堂を訪問し、教科書ではなかなか教えてくれない日本と台湾との深いかかわりや歴史について見学しました。
百聞は一見に如かず。日本人が知らなくてならないことばかりでありました。
この4日間、台湾の方々と直接交流し、台湾の社会や文化、歴史を知ることが出来た大変有意義な研修会でありました。
研修会をご支援いただいたすべての関係者に心から厚く感謝御礼申し上げます。